

令和3年度入学試験
(オンライン試験)

沖縄県立芸術大学
音楽学部

問題解答例

入試問題例

《試験科目 目次》

* 一般入試

	問題	解答
楽典（音楽表現専攻、音楽文化専攻音楽学コース）	1	2
楽典（音楽文化専攻沖縄文化コース、琉球芸能専攻）	3	4
作曲実技	5	—
小論文（音楽文化専攻）	6	7
小論文（琉球芸能専攻社会人選抜）	8	—
初見視唱	12	—

* 推薦入試

	問題	解答
楽典（音楽表現専攻(※注)）	13	14
楽典（音楽文化専攻沖縄文化コース、琉球芸能専攻）	15	16
初見視唱	17	—
小論文（音楽文化専攻）	—	18

※注：作曲理論コースを除く

試験科目：楽典（音楽表現専攻・音楽文化専攻音楽コース）

楽譜は、L.ハイドン作曲《弦楽四重奏曲 作品33-3》第IV楽章の一部(72～112小節目まで)を大譜表に書き換えたものです。この楽譜をもとに出題される口述での設問に対し、制限時間内に口述で解答しなさい。

Quartetto Op. 33, No. 3

Rondo
Presto (♩=120-132)

J. Haydn

令和3年度一般選抜「楽典」口述試験

設問

- ①6 段目を見て下さい。
6 段目 1 小節目、第 1 拍の音を下から順にドイツ音名で読みなさい。
- ②その和音の種類を答えなさい。
- ③5 段目、6 段目を見て下さい。
5 段目 2 小節目から 6 段目最後の小節にかけて、何調から何調に転調しているか答えなさい。
- ④同じく、5 段目、6 段目を見て下さい。
5 段目 2 小節目から 6 段目の最後の小節までの高音部主旋律を、この曲にふさわしいテンポで音程を付けずに、ド・レ・ミ…で唱えなさい。

令和3年度沖縄県立芸術大学音楽学部 一般選抜試験

科目名：楽典（音楽表現専攻・音楽文化専攻音楽学コース）解答用紙

受験番号	
------	--

【重要】 楽典の受験者は、この解答用紙と大学ホームページからダウンロードした楽譜を手元に用意して、受験してください。当日、手元に用意していない場合には、試験を実施することができませんので、注意してください。

【注意事項】

- ・参考資料やノートやメモは、口述試験の時間中、見てはいけません。自分から見えない所に置き、口述試験の画面以外のウィンドウはすべて閉じてください。
- ・手元には、ダウンロードした楽譜、解答用紙、筆記用具のみを用意してください。
- ・ダウンロードした楽譜と解答用紙は、書き込みのないものを使ってください。
- ・口述試験が始まったら、楽器や声などで音を出してはいけません。

【解答】

① C, Es, As, As

② 長三和音

③ g-mollからEs-durに転調

④（書かずに口述で解答）

「唱え」という設問のため、解答例掲載なし

科目名：楽典 専攻名・コース名：音楽文化専攻沖縄文化コース、琉球芸能専攻

以下の楽譜は、《仰げば尊し》の旋律です。この楽譜をもとに試験当日出題される口述での設問に対し、制限時間内に口述で解答しなさい。

令和3年度沖縄県立芸術大学音楽学部一般選抜試験

科目名： 楽典 専攻名・コース名：音楽文化専攻沖縄文化コース、琉球芸能専攻

- ① この曲の拍子を答えなさい。
- ② 1段目の最初の音の下に書かれた強弱記号の読みと意味を答えなさい。
- ③ 2段目の1小節目の2番目の音と3番目の音の音程は、長2度です。では、同じ2段目の3小節目の3番目の音と4番目の音の音程を答えなさい。
- ④ 2段目の旋律を、速度表示にしたがい、正しいリズムで、音程を付けずにドレミ…で唱えなさい。

令和3年度沖縄県立芸術大学音楽学部一般選抜試験

科目名：楽典（音楽文化専攻沖縄文化コース、琉球芸能専攻）解答用紙

受験番号	
------	--

【重要】 楽典の受験者は、この解答用紙と大学ホームページからダウンロードした楽譜を手元に用意して、受験してください。当日、手元に用意していない場合には、試験を実施することができませんので、注意してください。

【注意事項】

- ・参考資料やノートやメモは、口述試験の時間中、見てはいけません。自分から見えない所に置き、口述試験の画面以外のウィンドウはすべて閉じてください。
- ・手元には、ダウンロードした楽譜、解答用紙、筆記用具のみを用意してください。
- ・ダウンロードした楽譜と解答用紙は、書き込みのないものを使ってください。
- ・口述試験が始まったら、楽器や声などで音を出してはいけません。

【解答】

①

8分の6拍子

②

メゾ・ピアノ

少し弱く

③

短6度

④（書かずに口述で解答）

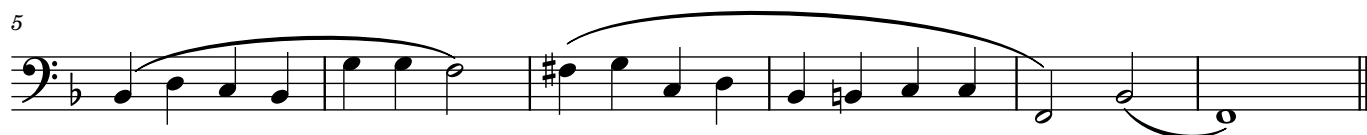
「唱え」という設問のため、解答例掲載なし

令和3年度沖縄県立芸術大学音楽学部一般選抜試験

科目名： 作曲実技 専攻名・コース名：作曲理論コース

次のバス課題、ソプラノ課題を四声体で実施しなさい。
(問題の書き写し間違いに注意すること。)

1. バス課題



2. ソプラノ課題



令和 3 年度沖縄県立芸術大学音楽学部 一般選抜

科目名： 小論文 専攻・コース名： 音楽文化専攻 沖縄文化コース・音楽学コース

次の課題図書を読んで、問いに対する答えを解答用紙に記入しなさい。

若尾 裕 『サステナブル・ミュージック これからの持続可能な音楽のあり方』
(アルテスパブリッシング、2017)

問 1 あなたが興味を持った部分 3 カ所について、ページ番号を添えて書き出し、それぞれの理由を説明しなさい (合計で 600 字程度)。

問 2 課題図書全体を通しての著者の考え方に対して、あなたの考えを論じなさい
(1200～1600 字程度)。

小論文（音楽文化専攻 沖縄文化コース・音楽学コース）

1. 出題の意図

課題図書は、音楽の「近代」をめぐる状況についてのエッセイである。出題は、興味を持った部分や著者の考え方について説明させ、受験者の考えを述べさせることにより、受験者が課題図書の内容をどのように理解し、どのように考えたか、またその考えをどのように他者に対して的確に伝えることができるかを問うものである。

2. 評価の観点

- ・ 課題図書に対する理解
- ・ 音楽や舞踊に対する知識・理解、関心・問題意識
- ・ 論理性、思考力
- ・ 独創性、発想力
- ・ 文章構成力・表現力（誤字脱字や文章の技術等も含む）

次の文章を読んで、文章に続く問題に答えなさい。

第七 別紙口伝

この口伝において、能における花とは何か、仮に自然の花が咲く姿をみて、萬のものを花にたとえはじめた理^{ことわり}をわきまえるべきである。

そもそも花というもの、万木千草^{ばんぼくせんそう}四季折々に咲くものであって、その時を得た珍しさゆえに愛でられるのである。申樂においても人の心に珍しいと感じられる時、それがすなわち面白いという心なのだ。花、面白い、珍しい。これらは三つの同じ心である。いずれの花でも散らずに残る花などあろうか。花は散り、また咲く時があるゆえ珍しいのだ。能も一所に常住^{ひょうじゅう}せぬところを、まず花と知るべきだ。一所にとどまらず他の姿に移り行くことが珍しいのだ。

ただし留意すべき点がある。いくら珍しいといっても、この世にないものを演じあらわすわけではない。花伝で示した各章をことごとく稽古し終わり、さて申樂を始めようとするときに、その物数を用々に従って取り出すのだ。花の場合も萬の草木において、四季折々の時の花以外に珍しいと感じるものがあるだろうか。そのように習い覚えた品々を究め尽くせば、その時々世相を心得、その時々人の好みに従って芸を取り出す。これは季節の花が咲くのを見るがごときである。花といっても去年咲いた花の種から咲いたもの。能も以前見た芸であっても、物数を究めればその数を尽くすまで久しくかかる。久しぶりに見れば、また珍しいものである。

その上人の好みも色々で、音曲・振舞い、物真似も、所々で変わりとりどりであれば、いずれの芸をもやり残してはならない。たとえば、物数を究めつくしたシテは初春^{はつはる}の梅に始まり、晩秋^{ばんしゅう}の菊が咲き終えるまで、一年中の花の種をみな持つているようなものである。いずれの花であろうとも人の望み、時節に応じて取り出すべきである。物数を究めていなければ、時により花を失うことがある。たとえば春の花の盛りが過ぎ、夏草の花を觀賞したいという頃合い。春の花の芸のみを得たシテが、夏草の花もなく過ぎし春の花をまた持ち出しても、それを時の花といえるだろうか。

これにて悟るべきである。ただ花は見る人の心に珍しいゆえ花なのだ。すなわち第三問答條々、花の段に「物数を究め工夫をつくして後、花の失せない所を知るだろう」と書いたのが、この口伝

の本旨である。つまり花とは特別にある何かではない。物数を尽くし工夫を得て、珍しさを心得ることが花である。「花は心、種は技」と書いたのも、これゆえである。

物真似の鬼の段に「鬼のみをよくする者は、鬼の面白い所をも知るまい」といったのも、物数を尽くした後、意外にも鬼を出したことで、珍しさが花となって面白いのである。他の芸がなく鬼のみの上手だ、と思ってみれば芸はさすがと感じられても珍しい心がないので見所に花はない。「厳に花の咲く如し」ともいったが、鬼の芸はそもそも強く恐ろしく肝をつぶすように演じなければ鬼には見えない。これを厳といったのだ。花というのは他の芸をすべてやり尽くし、幽玄至極の上手だ、と人が思い馴れたところへ思いも寄らず鬼を出す。観客は珍しさゆえ面白く感じる。これが花である。それゆえ鬼のみ演じるシテは、厳ばかりで花はないといったのだ。

技巧についての口伝。音曲・舞・働き・振り・風情などについても前段と同じ心得がある。いつもと同じ演出と音曲なので、ここはこういう風にやるはずだと人が思い込んでいる場面を、そこには住せず、心中に同じ振りではありながら、いつもよりは軽がると芸を嗜む。音曲も同じものではありながら、なお工夫を廻らせ曲を彩り、声調を嗜み、われながら今ほど気の入ったことはないという程大事に演じるのだ。これを見、聞いた人にいつもと違い面白かったと評価されるだろう。これは見聞きした人の心に珍しいと感じさせたからに違いない。

(中略)

一、能においては、十体(あらゆる芸種)を心得るべきである。十体を体得したシテは同じ芸を一回り一回りずつ演じたとしても、その一通りの間が久しいゆえ観客はまた珍しく思うものだ。十体を得た人が、その中に故実・工夫を加えることで芸は百色にも亘るだろう。三年、五年に一度くらい同じ曲をやる場合には、珍しく見せる替えの手を計画すべきである。これは大きな安心となる。

または一年の中でも四季折々に十体との取り合わせを考慮する。日数を重ねた申楽では、一日の中はいうにおよばず、一曲の中でも芸の品々を彩って見せるべきである。このように大きな計画より、ささいな見せ方にいたるまで、自然に心づくようになれば一生花は失せないものである。

さらに、十体より大事なことは、年々去来の花を忘れぬことだ。たとえば十体とは物真似の品々のことだが、年々去来とは若い頃の容姿、初心の時の技、油の乗った時分の演技、老年のただずまいなど、その時代時代に自然と身についた芸をすべて今、一度に持つことである。ある時は少年や若者の能に見え、ある時は全盛のシテかと思い、またある時には、いかにも臆たけて年季の入ったように、同じ役者とは思えないような能をすべきである。これすなわち幼少時より老後までの芸を

一度にもつ理である。それで年々、去つてはまた来る花とはいったのだ。

ただし、この位に至つたシテは、今にも昔にも見聞きしたことがない。亡父観阿弥、若い盛りの能では、臆たけた芸がことのほか得意であつたなどと聞いているのだが。四十過ぎの能は見慣れているので間違いない。自然居士の物真似に、舞台の演技をご覧になつた時の將軍より十六、七の役者に見えたなどとお褒めいただいたものだ。これはまさしく人も申し、自身も見ただことなので、この位に相應している達人だと思つたことである。このように若い時分には行く末の年々去來の芸を得、年とつてからは過ぎしかたの芸を身に残すシテ。これまで一人と見たことも聞いたこともないものだ。されば初心よりこのかたの芸能の品々を忘れず、その時々、用々に従つて取り出すべし。若くして年寄りの風情、年とつてなお盛りの芸を残すこと。珍しくないはずがあろうか。

されば芸の位が上がつたといつて、過ぎし芸風をやり捨てやり捨てしては忘れてしまうこと。ひたすら花の種を失ひ続けることとなる。その時々咲く花ばかりで種がなければ、手折られた枝の花のようなもの。種がありさえすれば、年々時々の折に、なぜまたその花に達えないことなどあろうか。ただかえすがえすも、初心忘るべからず。されば常の批評にも、若いシテに「はや完成した」「年季が入っている」などと褒め、老シテには「若やいでいた」などというのである。これぞ珍しさの理ではあるまいか。十体をそれぞれ彩れば百色にも及ぶ。さらにその上、年々去來の品々を今一身に持てたとしたら、どれほどの花になることであらうか。

(中略)

一、因果の花を知ること、すなわち極意である。すべてのものみな因果である。初心からの芸能の数々は因である。能を究め、名を得ることは果である。されば稽古にあたる因をおろそかにすれば、果を得ることは難しい。これをよくよくわきまえること。

また時の運とは恐るべきもの。去年、盛りであれば、今年は花がないことを悟るべし。時には男時、女時というものがある。どのようにしても能にはよい時があれば、必ずまた悪い時もある。これは人智の及ばぬ因果というものだ。これを心得て、さほど重要ではない申樂の立合い勝負に、あまり主張も立てず骨も折らず勝負に負けようとも心にかへず、手も束ねて、少な少々と能をする。観客もこれはどうしたことかと興醒めである所へ、大事の申樂の日、手立てを交え十八番の能を、精一杯力を入れてやつて見せるのだ。これで観客に意外の気持ちが生まれ肝要の立ち合い、大事の勝負に必ず勝てるというわけだ。これが珍しさの大きな効果である。前回悪かつたという因果が、今度はよい方に廻るのだ。

およそ三日に三公演申樂がある時、初日には技もほどほどにあしらって、三公演のここ一番という時に、よい曲でしかも得意な芸を精魂込めてやってみる。一日のうちでも立合い勝負のさなか、自然に女時につかまってしまうことがある。立ち上がりは手をこまねいて待つ。敵の男時が女時に転じた頃合いを見逃さず、よい能を採み寄せて出すのだ。ここがふたたびこちらの男時に転じる時分である。ここで能がよく出で来れば、その日の目玉を演じるのだ。

さて男時、女時とはすべての勝負に必ずどちらか一方が色めいて、いい感じになるときがある。これを男時と心得る。勝負の回数が多く長くなれば、双方へ移り変わり、移り変わりするものである。ある書には「勝負神^{しょうぶがみ}といって勝つ神様、負ける神様それぞれがご自分の勝つ部屋、負ける部屋を定め守っておられる。弓矢の道ではこれを第一の秘事となす」とある。敵方の申樂がよく出で来れば、勝つ神様はあちらにいらっしゃると心得、まず畏^{かしこ}まるべきだ。これは時の間の因果を司る二神^{にしん}にてましませば、双方へ移り変わり、移り変わりをなさるのである。ふたたびこちらの時分がきたと感じたら、自信のある能を出すこと。これすなわち、演能の場の因果である。返す返すおろそかに思ってはならない。信じてやるからこそよい結果がついてくる。

(中略)

応永二十五年 六月一日

世阿 在判

(出典：世阿弥『現代語訳風姿花伝』水野聡訳、株式会社PHP エディターズ・グループ、二〇〇五年、八七～一〇一ページ)

問一 本文中に「花は心、種は技」とあるが、あなたが専門とする芸能における「花と種」について、具体例を挙げながら四〇〇字以内で述べなさい。

問二 本文中に「因果の花」とあるが、あなたが専門とする芸能における「因果」について、あなたの実体験に基づきながら八〇〇字以内で述べなさい。

令和三年度 沖縄県立芸術大学音楽学部 一般選抜試験問題
科目名 〈初見視唱〉 琉球芸能専攻 琉球舞踊組踊コース

組踊「執心鐘入」 問題 A

① 若松詞

わぬや中城 なかぐすく
若松どやゆる

みやだいらごとあてど

首里にのぼる しゅり

廿日夜のくらさ はつかよ

行先やまよて いくさき

ことに山路の やまみち

露もしげさ つゆ

③ 若松詞

御縁てす知らぬ ごゑん
恋の道知らぬ こい みちし

しばし待ちかねる ま

夜明しら雲 よあけ くも

④ 小僧（一）詞

昔から寺や むかし てら

女 禁止さらめ をんな きじ

いきやる事あとして こと

とまいてきちやが

② 女詞

たるよ夜深さに よぶか

宿からんでいふすや やど

親の留守やれば おや るす

自由もならぬ じゆ

出典…伊波普猷編『校註 琉球戯曲集』一九九二年 榕樹社

* 一部、異体字を改め、句読点については省いた。

令和三年度 沖縄県立芸術大学音楽学部 一般選抜試験問題
科目名 〈初見視唱〉 琉球芸能専攻 琉球舞踊組踊コース

組踊「執心鐘入」 問題 B

① 女詞

親の留守なかに おや るす
宿からち置て やど おきよ

与所知れてわぬや よそし

憂名立ちゆめ うきな

③ 女詞

七つ重べたる かさ
年頃の里に としごろ さと

思事のあてど おもこと

とまいてきちやる

② 若松詞

おやの留守てやり るす

自由ならぬでいふすに じゆ

繰返ちまたや くりかへ

いひぐれしやあすが

わぬや中城 なかぐすく

若松どやゆる わかまつ

みやだいらごとあてど しゅり

首里にのぼる

④ 小僧（二）詞

尋ねゆる里や たづ さと

夢やちやうも見だぬ いめ たちもち

急ち立展れ いそ たちもど

女わらべ をんな

出典…伊波普猷編『校註 琉球戯曲集』一九九二年 榕樹社

* 一部、異体字を改め、句読点については省いた。

楽典【音楽表現専攻（作曲理論コースを除く）】

以下の楽譜は、L.v. ベートーヴェン作曲《ピアノ三重奏曲 作品97》第2楽章の一部です。この楽譜をもとに試験当日出題される口述での設問に対し、制限時間内に口述で解答しなさい。

Scherzo
Allegro (♩=60 ca.)
L. V. Beethoven Op. 97

Violin
Violoncello
Pianoforte

5 10 15 20 25 30

VI.
Vc.
Pf.

科目名：楽典【音楽表現専攻（作曲理論コースを除く）】

設問

1. ピアノ・バートの23小節目第3拍の音を、下から順にドイツ音名で答えなさい。
2. 3段目は何調から何調に転調しているか答えなさい。
3. 4段目の最初の小節に書かれた楽語の読みと意味を答えなさい。
4. 1段目のチェロの旋律を、この曲に相応しい tempo と正確なリズムで、音程を付けずに do, re, mi... で唱えなさい。

令和3年度沖縄県立芸術大学音楽学部 学校推薦型選抜

科目名：楽典（音楽表現専攻【作曲理論コースを除く】）解答用紙

受験番号	
------	--

【重要】 楽典の受験者は、この解答用紙と大学ホームページからダウンロードした楽譜を手元に用意して、受験してください。当日、手元に用意していない場合には、試験を実施することができませんので、注意してください。

【注意事項】

- ・参考資料やノートやメモは、口述試験の時間中、見てはいけません。自分から見えない所に置き、口述試験の画面以外のウィンドウはすべて閉じてください。
- ・手元には、ダウンロードした楽譜、解答用紙、筆記用具のみを用意してください。
- ・ダウンロードした楽譜と解答用紙は、書き込みのないものを使ってください。
- ・口述試験が始まったら、楽器や声などで音を出してはいけません。

【解答】

① C, C, G, B, C, E

② B-durからF-dur

③ ピッツィカート 弦を弾いて演奏する

④（書かずに口述で解答）

「唱え」という設問のため、解答例掲載なし

令和3年度沖縄県立芸術大学音楽学部推薦型選抜

科目名：樂典

専攻名・コース名：音楽文化専攻沖縄文化コース、琉球芸能専攻

令和3年度沖縄県立芸術大学音楽学部 学校推薦型選抜

科目名： 楽典

専攻名・コース名：音楽文化専攻沖縄文化コース、琉球芸能専攻

- ① この曲の拍子を答えなさい。
- ② 2段目の4小節目の第4拍に書かれた強弱記号の読みと意味を答えなさい。
- ③ 3段目の1小節目の第3拍の音と第4拍の音の音程は、長3度です。では、その次の小節の第3拍の音と第4拍の音の音程を答えなさい。
- ④ 1段目の旋律を、速度表示にしたがい、正しいリズムで、音程を付けずにドレミ…で唱えなさい。

Musical score for "The Swan" by Camille Saint-Saëns. The score consists of four staves of music, each with a different dynamic marking: *mp*, *mf*, *f*, and *f*. The first staff is marked *legato*. The tempo is indicated as $\text{♩} = 80$. The music is in 4/4 time. The melody is characterized by a series of eighth and sixteenth notes, often grouped with slurs and ornaments. The dynamics range from mezzo-piano (*mp*) to fortissimo (*f*). The score is numbered 13 and 15 at the bottom.

令和3年度沖縄県立芸術大学音楽学部 学校推薦型選抜

科目名：楽典（音楽文化専攻沖縄文化コース、琉球芸能専攻）解答用紙

受験番号	
------	--

【重要】 楽典の受験者は、この解答用紙と大学ホームページからダウンロードした楽譜を手元に用意して、受験してください。当日、手元に用意していない場合には、試験を実施することができませんので、注意してください。

【注意事項】

- ・参考資料やノートやメモは、口述試験の時間中、見てはいけません。自分から見えない所に置き、口述試験の画面以外のウィンドウはすべて閉じてください。
- ・手元には、ダウンロードした楽譜、解答用紙、筆記用具のみを用意してください。
- ・ダウンロードした楽譜と解答用紙は、書き込みのないものを使ってください。
- ・口述試験が始まったら、楽器や声などで音を出してはいけません。

【解答】

①

4分の4拍子

②

メゾ・フォルテ

少し強く

③

完全5度

④（書かずに口述で解答）

「唱え」という設問のため、解答例掲載なし

令和二年度 沖縄県立芸術大学音楽学部推薦入学試験

科目名:初見視唱(専攻コース名:琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース)

組踊「執心鐘入」

若松詞

露でやんす花に

宿かゆる浮世

慈悲よ御情に

からち給うれ

女詞

親の留守なかに

宿からち置て

与所知れて我ぬや

浮名立ちゆめ

若松詞

悪縁や袖に

結ばはんばからひ

我身や首里みやだいいり

やてど行きゆる

小僧(一)詞

やかれよも座主が

かじめたる若衆

留守ならば互に

語る嬉しや

出典『組踊 執心鐘入』(沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻台本) 沖縄県立芸術大学

令和3年度 沖縄県立芸術大学音楽学部 学校推薦型選抜

小論文（音楽文化専攻 沖縄文化コース・音楽学コース）

1. 出題の意図

出題は、現代の社会と音楽・舞踊との関わりについて論じさせることにより、受験者が音楽・舞踊にどのように接し、どのように考えているか、またその考えをどのように他者に対して的確に伝えることができるかを問うものである。

2. 評価の観点

- ・音楽や舞踊に対する知識・理解、関心・問題意識
- ・論理性、思考力
- ・独創性、発想力
- ・文章構成力・表現力（誤字脱字や文章の技術等も含む）